

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ところで、ボクらはどういうシステムでひとつひとつの言葉を吸収し、それを自分の表現の道具として話したり書いたりできるようになったのでしょうか。

あ、モンシロチョウという蝶の名前を覚えた時、いボくらにはなにが起きたのでしょうか。

日本人ならたいはいは日本語でものを考えます。しかし、日本語の辞書一冊分の言葉がすべての日本人の心に均等に組み込まれているわけではありません。辞書を開いて言葉を知ることにはあっても、言葉のすべてを辞書から学んだわけではないからです。

ボくらに言葉を教えてくれたのはだれでしょうか？ 親。先生。友達。テレビやラジオでしゃべっている人。インターネット。映画。歌。詩や物語。参考書。

モンシロチョウであれば、ほとんどの人は幼児の頃、その蝶が飛んでいくのを見て指を指し、「ああ……」と声をあげたところで、親や親戚のおじさんなどが「あれはモンシロチョウというんだよ」と教えてくれたのだと思います。目の前をひらひら飛んでいく白い蝶。大きなアゲハチョウや黄色のモンキチョウとはあきらかに違う生き物です。ここで、目でもとらえたモンシロチョウと、差異を示すために与えられたモンシロチョウという名前が合体し、ひとつの存在として認識されていくようになります。

では、大人たちが蝶に対していっさいの興味を持たず、幼児がモンシロチョウを指さしてもなにも言ってくれなかった場合はどうでしょう。

う、この子がモンシロチョウという蝶の名前を覚えるのはもうすこしあとになります

す。しかし、たいていは友達などが教えてくれて、①目でとらえた差異とそれを示す名前の合体という同じ反応が起きるのです。ただ、時にはこんな例も考えられます。それは友達どうしの会話のなかで、モンシロチョウという名前が先に出てきて、本人がその実体をつかめない場合です。素直に、「モンシロチョウってなに？」と訊ける人なら、次に蝶が飛んでくる時に友達が教えてくれるかもしれませぬ。a名詞が先に記憶に残り、あとで差異を理解するという経験です。

では、他人に尋ねる勇気がこの子になく、「モンシロチョウってなんだろう？ 今さら訊けないし」と胸のなかに疑問をしまいこんでしまった場合はどうでしょう？ この子は家に帰ってから図鑑を広げたり、ネットで調べたりするかもしれませぬ。そしてこの独自の経験を通じて想像をふくらませ②ひよつとして春になるとひらひら飛んでいるあの小さな白い蝶のことなのかな、とbイメージの上での差異と名詞を結び付けるのです。

どの言葉の覚え方が正しい、ということではありません。ボクがここで言いたいことは言葉の覚え方にはいくつものパターンがあるということなのです。

たいていの場合、ボクらは日々の経験を通じて言葉を覚えてきました。幼児から少年期にもっとも多くの言葉を覚えますから、ものを初めて見る、差異を知る、言葉を知って認識できるようになる、という受け身の姿勢での吸収がほとんどです。しかし、理科や社会の教科書を読んで勉強する時のように、言葉がまずきっかけになって差異を理解していくというパターンもあります。えタイプですね。これもまた、言葉の森の木々を増やしていくひとつの方法なのです。

ボクらの胸にある言葉の森は、さまざまな経験によって一本ずつ木々が増え、徐々に大

きくなってきたものです。親が教えてくれた言葉。友達と遊ぶなかで覚えた言葉。好きな小説で知った言葉。参考書で一生懸命に覚えた言葉。本当に必要なかと疑いながらもひとつでも多く覚えようとした英単語などもそうです。

プチ革命は、この言葉の森に、あえて③自分で選んだ一本の木を植えてみるという行為が始まりとなります。意識的に、自分の好きな木を植えるのです。

ここが肝心なところです。

受け身で覚えるのではない。勉強だからと仕方なく頭に入れるのではない。自分の好きな木を植えて、心の中に言葉の葉を繁らせていくのです。

(ドリアン助川「プチ革命 言葉の森を育てよう」岩波ジュニア新書)

問一 空らん あ う にあてはまる言葉を、次の記号からそれぞれ一つ選

びなさい。(同じ記号を二度使ってはいけません。)

ア おそらく イ たとえば ウ たしかに エ いったい

問二 ぼう線部①を具体的に表している一文を本文中から三十四字で抜き出し、その最初の三文字を答えなさい。

問三 は線部 A、B の説明となるように、左の文の (1) (2) (3) に当てはまるものとしてふさわしいものを、本文中よりそれぞれ漢字二字で抜き出して答えなさい。

A は (1) が先に話題に上り、それがどのようなものであるか、その (2) を積極的につかもうとする言葉の覚え方であり、B はその場で (2) を理解するのではなく、後にさまざまな経験を通して (3) することで、その (1) と (2) を結びつけるといいう言葉の覚え方である。

問四 ぼう線部②を言いかえたものとしてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

- ア 下手をすると
- イ よく考えれば
- ウ 多くの場合は
- エ もしかすると

問五 空らん え にあてはまるものとしてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

- ア モンシロチョウを指さして、名前を教えてください
- イ モンシロチョウという名だけを知り、あとで図鑑を開く
- ウ モンシロチョウがわからず、疑問をそのままにする
- エ モンシロチョウの姿を説明して、友達に名前を聞く

問六 ぼう線部③はどのようなことを述べているのか、五十字以内でわかりやすく説明しなさい。ただし解答の中に「受け身」、「見つける」の二語を必ず使うこと。（「見つける」は例えば「見つけられ」、「見つけ」などのように語尾の形は変えてもよい。）

問七 本文の中から次の例文の傍線部の言葉と同じ種類の言葉（オノマトペ）を抜き出して答えなさい。

（例）彼は私を見てにっこり笑った。

【問題は次のページに続きます】

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

◎次の小説の舞台は一九七五年の広島である。父親の仕事の都合で、東京から広島に転校してきた中学二年生のマナブは広島で生まれ育った同級生のユキオとヤスと友達になった。

「もうええ、ようわからん！」

ヤスはいらだたしげに言うと、三角に折り畳んだ千代紙をグシャツと握りつぶした。

「あーあ……もったいないのう」

「カンシヤク起こすなって」

ユキオとマナブは口々に言って、やれやれ、とため息をついた。これで三枚目の千代紙が^{*1}反古^ごになってしまった。

「簡単じゃがな、鶴いうたら折り紙の基礎中の基礎じゃ。幼稚園の子でも折れるわい。」
ユキオはあきれ顔で言って、「こがあに不器用とは思わなかったのう」と首をひねる。

一方、マナブは懇切丁寧に、「ほら、俺の手元、よく見て。こうやって、もつとしっかり折り目をつけなきゃ」と、自分でお手本を示しながら教える。

だが、ヤスはすっかり^{*2}依怙^{こじ}地になって、「折り紙はオナゴの遊びじゃけえ、もう二度とやらん」と腕組みをして、ふいつ、と横を向いてしまった。

昼休みである。雨である。給食を食べているときに降りはじめた。六月に入って初めて――そして、五月の終わりのホームルームで「雨の日の昼休みは鶴を折りましょう」と決

まっつてから初めての雨だった。

「ほんまに、小柳のアホが、ボケが、ブスが……」

ヤスは腕組みをしたまま、椅子の前足を浮かせてぶつくさ言う。

発案者は小柳仁美だった。生徒会の千羽鶴運動だけでは飽きたらず、「一年三組だけでもどんどん千羽鶴をつくって、原爆病院の患者さんにプレゼントしましょう」とみんなに訴えたのだ。

「しかたなかるうが、ヤスも賛成したんじゃけえ、文句言うスジなかる？」

「賛成したわけと違うわい。反対せんかっただけじゃ」

ユキオは「屁理屈言うなや」とまたあきれたが、マナブは、そうだよなあ、と苦笑いでヤスに応えた。実際、ヤスの言いぶんは屁理屈ではあったが、間違いではなかったのだ。

クラス委員としてホームルームの司会を務める仁美は、票決の時に「賛成のひとは手を挙げてください」ではなく、「反対のひとは手を挙げてください」とみんなに言った。これはキツイ。「いいこと」をみんなの前ではつきりと反対するのは難しい。たとえ賛成しているわけではなくても、反対とは、やはり言いきれない。

お互いに牽制し合うように教室が あ と黙り込むなか、ただ一人だけ手を挙げたのは沢口真理子だった。仁美は顔を い が、①指名して反対の理由を尋ねたりはしなかった。

マナブの本音としては、訊いてほしかった。知りたかった。真理子とは団地の路地で出くわしたあの日以来、話をしていない、真理子が広島を嫌っている理由も、千羽鶴を折らない理由も、まだわからないままだった。

だが、仁美は真理子と議論をするより、無視することのほうを選んだ。手を挙げたままの真理子には知らん顔をして、にっこりと笑ってみんなに言った。――「反対のひとは一人だけだったので多数決で賛成です」

いま、真理子は教室にいない。昼休みが始まるとすぐ、どこかへ出て行ってしまった。マナブは教室を見回して、それにしてもなあ、と思う。男子も女子もみんな真面目に、黙々と鶴を折っている。

「千羽鶴って、みんなよくつくってるわけ？」

ヤスはすねたまま「知るか」と②ぶつきらぼうに返したが、ユキオは「ウチの小学校は、しよっちゆうつくつとったよ」と教えてくれた。

P T Aや児童会の呼びかけでつくったり、「自由に鶴を折って下さい」というメッセー
ジとともに図書室に千代紙を入れた箱が置いてあったりした。学校以外でも、地区の子ども会や婦人会でつくることあつたし、通っていたそろばん塾でもつくった。卒業のとき
には、六年生だけでなく在校生も全員で協力して、千羽鶴を十束まとめた万羽鶴までつく
ったという。

「まあ、そこまでやりよつたんはウチの学校だけかもしれんけど……」

ユキオはそう前置きしながら、「ほいでも、まあ、広島じゃけえ」と言った。
説明はなかったが、マナブは納得して言った。

「原爆だもんね、やっぱり」

ユキオは一瞬意外そうな表情になって、おう、③うん、そう、と小刻みにうなずいた。

「千羽鶴って、平和の祈りなんだろ？」マナブはつづける。

「④ うん……」

「原爆って『ピカ』って言うんだよね」

「いや、まあ……むしろは、ふつうに『原爆』言いよるけど」

⑤ ヤスは二人の話には加わらず、椅子の後ろ脚一本で体を支えた。だが、べつに見てほしいわけではないのか、荒技を決めても黙ったまま、二人には目も向けない。

「卒業記念の万羽鶴も、みんなで平和公園まで持って行ったんよ」とユキオが言った。平和記念公園の『原爆の子の像』に供えるのが、毎年の行事なのだという。「マナブは『原爆の子の像』って知っとる？」

⑥ 「いや……ごめん、場所よくわかんなくて」

「原爆ドームは？」

「それはチラッと見たけど」

「原爆資料館、いっぺん行ってみたらええのに、今年の三月に改装工事がすんどるけえ、きれいになっとるよ」

正式には平和記念資料館——ユキオのお薦めは、原爆の閃光せんこうで人間の影が日光写真のように焼きついてしまったという『人影の石』だった。原爆が投下された八時十五分を針が指したまま止まった懐中時計もあるらしい。マナブも、一度は入ってみなければ、と思っ
ている。平和記念公園も通りすがりに見るだけでなく、ちゃんと中を歩いてみたい。そう
しないと、「原爆」や「平和」について本当に理解することはできないはずだ、とも思う。
「せっかく広島に引っ越してきたんじゃけえ、ほんま、行って見たほうがええぞ」

「うん……」

「なんじゃったら、わしらが案内しちやろうか？」

のう、とユキオが振り向くと、ヤスは乱暴なしぐさで椅子の脚を四本とも床に下ろして、「要らんことせんでええ」と言った。「資料館はよそモンに見せるためにあるんと違うわい」

「よそから来た人が見てくれんと困るがな。そのための資料館なんじゃけえ」

「よそモンが見たってわからん」

「そがあなことないって」

「⑦ 広島のこととは広島のモンにしかわからんのじゃ」

ユキオは「なに言うとるんな」と苦笑したが、ヤスは真顔でつぶけた。

「広島と長崎のことがよそモンにわかるわけがなかるうが」

「…：鶴がよう折れんからいうて、やつあたりしたらいけんがな」

「鶴とは関係ないわい。よそモンをよそモン言うだけじゃ、ほんまのことじゃ」

また椅子を傾け、前脚を浮かせて、体のバランスをとる。

「ヤス、そがいなこと言わんでもええがな…：」

「いいいいいよ、とユキオを目でなだめたマナブに、椅子を危なっかしく揺らしながら、ヤスはそつぽを向いたまま言った。

「よそモンが自分から原爆の話やらするな。わしらから先に言われて話を合わすだけならこらえちやる。ほいでも、自分からは言うな」

わかったかボケ、と言いい捨てて椅子の支えを後ろ脚一本にした。そして座面を脇からつかみ、重心を巧みに移動させながら、竹馬のように左右一本ずつの脚で、「ほっ、ほっ、ほ

っ、ほっ……」と教室の前に向かう。

難易度も危険度も高い、きわめつけの荒技だった。それに気づいた男子の連中は「おおっ、ヤス、すげえっ!」「気合入っとするのう!」と歓声をあげ、仁美たち女子は「片桐君、なにサボりよるん!」「学校の備品で遊んだらいけんのよ!」と甲高い声を張り上げる。

その騒ぎで、「よそモン」の話のつづきはうやむやになってしまった。

席に残されたユキオは、「氣い悪うせんといってくれな」とマナブに謝った。

マナブは「べつに怒ってないよ」と笑って返す。「だって、俺、やっぱり『⑧よそモン』なのはほんとうのことだし」

ユキオはまだなにか言いたそうな様子だったが、マナブは「しよんべん行ってくる」と席を立って、教室を出て行った。

《語注》

- * 1 反古……書きそこないなどでいらなくなった紙。
- * 2 依怙地……どこまでも自分の主張を通そうとする態度。
- * 3 平和記念公園の『原爆の子の像』……原爆による白血病で亡くなった佐々木禎子さんをモデルに作られた像。佐々木禎子さんは元気になることを願って、亡くなるまでに千羽以上の折り鶴を折った。

(重松清「赤ヘル1975」講談社文庫)

問一 あ に入る語句として最もふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア しゅん イ ぎゅつ ウ ふつ エ しん

問二 い に入る語句として最もふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア ほころばせた

イ こわばらせた

ウ くしゃくしゃにした

エ つぶした

問三 ぼう線部①の理由としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア 意見があれば多数決の前言うことがルールだから。

イ たった一人、真理子が反対したことに腹を立てたから。

ウ 反対の理由が他の人の気持ちを变えることを恐れたから。

エ たった一人の反対意見など聞いても意味がないことだから。

問四 ぼう線部②「ぶつきらぼう」とはどのような様子を表す言葉か、ふさわしいものを

次の記号から一つ選びなさい。

ア あいきょうがない様子

イ おびえている様子

ウ かくしごとをしている様子

エ もったいぶった様子

問五 ぼう線部③、④の「うん」にはそれぞれユキオのどのような気持ちがこめられているか、ふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア ③の「うん」にはマナブが原爆と折り鶴のかかわりについて知っていると感じ
たうれしい気持ち、④の「うん」にはマナブもやはり原爆のことについては表面的な
ことしかわかっていないとがっかりした気持ちがこめられている。

イ ③の「うん」にはマナブが広島で生まれたのではないが、原爆についてきちんと
受け止めていると信頼している気持ち、④の「うん」にはマナブの頭で知って
いるだけの知識をひけらかしたことへの怒りの気持ちがこめられている。

ウ ③の「うん」にはマナブが発した被爆した人をいたわる言葉への感謝の気持ち、
④の「うん」にはマナブが原爆と折り鶴のことについて知っているふりをしたこ
とに対して裏切られたという気持ちがちこめられている。

エ ③の「うん」には自分はマナブよりも原爆と折り鶴のかかわりについてよく知
っていると自信を持っている気持ち、④の「うん」には広島生まれではないマナ
ブの言葉には関心が持てないという気持ちがこめられている。

問六 ぼう線部⑤のヤスの気持ちが具体的にわかる部分を本文中から十五字以上二十字以
内で抜き出して、その最初と最後の三字をそれぞれ答えなさい。

問七 ぼう線部⑥で、なぜマナブは「知らない」ではなく、このように答えたのか、その理由としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア うしろめたさ イ 恐ろしさ ウ 遠慮 エ おわび

問八 ぼう線部⑦でヤスが言いたいこととしてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア 原爆資料館の資料は、広島の人以外はきちんとした説明を受けなければそれが何であるのか理解できないということ。

イ 広島の人々が経験した原爆による苦しみは、広島の人しかリアルに感じ取ることができないということ。

ウ 原爆に関する広島の施設は、広島の人々の案内がなければたどり着くことはできないということ。

エ 現在の広島の人々がどのような暮らししているのかを肌で感じることはできるのは広島の人だけだということ。

問九 ぼう線部⑧ 「よそモン」について、

1 マナブの「よそモン」の気持ちが悪く思わぬ現れてしまっていることがわかる部分を本文中より十字以内で抜き出して答えなさい

2 「よそモン」であることを自覚しているマナブが、したいと考えていることを本文中より二十字以上二十五字以内で抜き出して、その最初と最後の三字をそれぞれ答えなさい。

【問題は次のページに続きます】

